

永一産商(株)

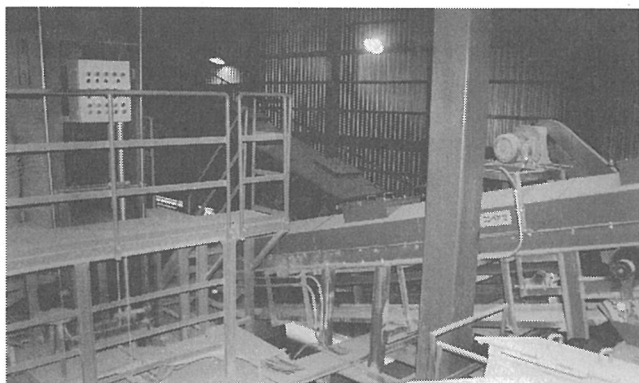
混合廃棄物の現況から生まれた 独自の分別、選別、リサイクル プラント



廃棄物のリサイクルを効率的に行う重要な要素に分別、選別があり、このハードルを品質維持し、コストダウンを図り、人と機械化でいかにライン化するかが施設づくりの最大のテーマといえます。

この難題を経験とアイデアで混合廃棄物処理システムを実現させた永一産商(株)(代表取締役永井良一/名古屋港区春田野1-2001)を訪ねました。

同社の混合廃棄物処理プラントは平成12年4月に建設費5億円をかけて完成したもので、主に建設廃棄物、製造廃棄物のリサイクルを目的にした施設。永井社長は当協会や(社)全国産業廃棄物連合会建設部会の役員を務めるなど、建設廃棄物について精通しており、設計の段階から深く係わり、こうした現況を熟知したアイデアがプラントづくりに生かされています。特に手選別や各種機械選別設備、監視カメラがラインに組み込まれ、操作室で種類や量、大きさに



よって一貫した体制で管理され、作業の効率化が図られています。

まず収集された廃棄物はヤードに置かれ、金属や銅線、発泡スチロール、廃プラスチック類、木くず等は人の手によって分別され、リサイクル業者に渡ります。残った混合廃棄物はホッパーに投入され、選別ラインへ。そこで再び手選別の工程を経て破碎機へ。大きな物はシュレッダーにかけられ選別ラインへ。細くなった廃棄物は風力、振動、磁気など各種機械選別の工程を経て再資源化の原料となり、リサイクル製品として販売されます。残った混合物はさらに選別機を通りリサイクル率の向上を図り、最終的には不燃物は埋め立てられ、可燃物は自社の焼却炉で焼却処理を行っています。

また、作業環境の面でも、選別時にホコリが工場内に広がらないよう随所にバグフィルターが設置され、キレイで作業のしやすい職場づくりがなされていました。同施設の処理能力は1日629.6m³/日。リサイクル率は現在80%ですが、今後さらに目標値を上げ、限りなくリサイクル化目指して行くとのことでした。

今後の抱負として永井社長は、この施設をモデルにしてもっと大規模の分別、選別、リサイクルラインを他社と協同で建設し、静脈産業の一端を担う新しい資源化施設を構想として持っているとのことでした。

